

2024年12月8日

「喜びの届く時」

イザヤ書 35:3-10

早川 真牧師

今朝与えられた聖書の箇所は預言者イザヤがイスラエルの民に語った言葉です。イザヤは、イスラエルの民が神の裁きによって約束の土地から遠く離れたバビロンの地に捕囚されることを預言しました。そしてそれはイザヤの死後約100年後に実現しました。しかし今朝の箇所ではそこから更に70年後、イスラエルの民が約束の土地に帰って来る時のことが預言されています。

私たちの現実には嘆きと悲しみが満ちています。祈っても祈っても事態が変わらない、むしろ悪くなっているようにさえ感じることもあることと思います。しかし、私たちが今嘆き悲しんでいるその一つ一つのこと、神の救いはすでに備えられていると今朝の聖書の箇所は私たちに告げています。私たちがクリスマスを前にアドベントの時を過ごすのは、私たちのどのような嘆きと悲しみにも神の救いが備えられていて、その救いはすでに神のもとを出発し、こちらに向かっていることを思い出すためです。

私たちの解決までの日々をろうそくにたとえる時、その一本は一日かもしれないし、一年かもしれないし、また十年かもしれないし、もしかしたら100年かもしれないし、しかしすでに神の救いは神のもとを出発し、神のご計画に従って最善の時に私たちのもとに追いつきます。その時、私たちの嘆きと悲しみは逃げ去ると今朝の箇所で語られています。

クリスマスは神の喜びが届く時です。このアドベントの時、その神の救いが追いつく日、喜びと楽しみが届く時を、祈りつつ、共に待ち望んで過ごしてまいりたいと思います。